建機用の制御装置に強み

トライテック 社長 深野（ふかの） 義昭（よしあき）氏

鹿島道路とトライテック（本社・相模原市、深野義昭社長）が共同で開発したアスファルトフィニッシャーの敷均（なら）し制御システム「ラインリーダ」が、日本建設機械化協会会長賞の貢献賞に選ばれた。「受賞でトライテックの存在を知ってもらう良い機会になった」と喜ぶ。「建機用の制御装置は厳しい自然環境の中で使う。この分野で積んできた実績を武器にしたい」

〝3〟を意味する接頭辞や挑戦の「トライ」と、技術の「テック」を組み合わせた社名「トライテック」が誕生したのはちょうど30年前。社名には技術を大切にしたいという思いを込めた。「大学の同級生3人が将来のマイクロコンピューター（マイコン）の可能性を信じて設立した。当時のマイコンは、現在の太陽光発電のような熱気があった」

大学の研究室でひと回り以上年下の後輩だった深野社長にも声がかかり、大学を出て間もない設立翌年の1982年に入社する。今でいうベンチャー企業だったが、不思議と入社に不安はなかった。「自分は楽観主義者。技術に集中できる環境に魅力を感じた」。マイコンの将来性とともに、熱心な誘いを受けて入社を決めた。

◇　◇

ラインリーダを共同開発した鹿島道路とは80年代に米アリゾナのテストコースで設計の勾配どおりに施工する制御装置の開発以来、息の長い付き合いが続いている。ラインリーダの開発チーム長である鹿島道路の山口達也生産技術本部機械部副部長は「技術力とともに決断の早さがトライテックの魅力」と評する。

深野社長も「適応力とスピードを社員にはいつも求めている」と話す。「工夫をして開発のスピードを上げる。当社だけでできる部分はとにかく早さにこだわっている」。ラインリーダの開発では、鹿島道路の機械部とトライテックの6人で構成する開発チームが総力を結集した。

機械化協会会長賞の貢献賞を受賞

深野社長が就任したのは6年前。「前社長が引退することから社長に就いた」。同社の社員数は深野社長のほか、エンジニア9人、製造4人、総務1人の計15人。90年代のバブル期には25人ほどに増えたが、「ここ10年は15人前後で安定している」

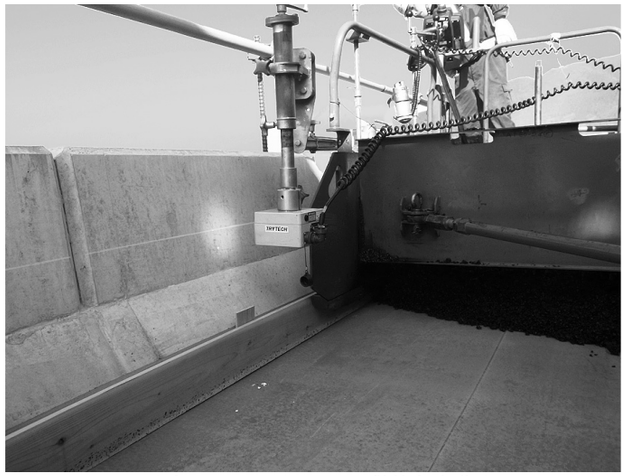
現在は、食品加工機械の制御基盤や建機の制御ボックス、画像処理の回路設計などを手がけ、「最終組み立てと検査は必ず自分たちの手でやる」ポリシーを貫く。

◇　◇

創立30周年を迎えたいま、「OEM（相手先ブランド製造）から、自社ブランドの製品を持つ自前メーカーに脱皮する」ことが同社の目標。OEMは「リスクがなく、かつては仕事も潤沢にあったが、今はそういう時代ではない」という危機感が経営改革に向かわせる。「多くの人に会社の名前を知ってもらえるのはすばらしいこと。社員にとっても励みになる」

そのためには建機メーカーや建設会社などに提案営業を行い、パートナーとして認識してもらうネットワークづくりに励む。「その突破口としても日本建設機械化協会会長賞の受賞をフルに生かしたい」。根っからの技術者ゆえに「営業トークは苦手」だが、その実直さをあえて強みに顧客の信頼を勝ち取り、技術者集団としての活路を見いだす。

自前メーカーへの脱皮が目標



アスファルトフィニッシャーの敷均し制御システム「ラインリーダ」

会社概要

▷創立＝1981年８月
▷本社所在地＝〒252―0344　相模原市南区古淵１―31―６
▷電話番号＝042―757―5481
▷ファクス＝同752―6603
▷資本金＝4,850万円
▷事業内容＝無線機応用装置の開発設計製造、建設機械・食品製造機械などの自動制御装置の開発製造など
▷社員数＝15人
▷ＵＲＬ＝http://www.trytech-inc.co.jp/